

2019(令和元)年8月実施

第48回 足立区政に関する世論調査 《概要版》

足立区では、昭和47年から区民の方を対象とした世論調査を実施しており、今回は第48回となります。世論調査の実施にあたっては、多くの区民の皆様にご協力いただき心からお礼を申し上げます。調査結果は、区政運営のための基礎資料として今後の施策に活用してまいります。なお、「第48回足立区政に関する世論調査」の全容をお知りになりたい方は、区のホームページ、区内の各図書館及び区役所区政資料室でご覧いただけます。

今回の調査では、区の取り組みについて、現状評価（満足度）が低く、重要度の高い分野として、これまでと同様に「交通対策」「防災対策」「治安対策」などがあげられています。

また、継続的に聴取している「居住地域の治安」では、平成27年以降、良いと評価する人が半数を超えて、今回は6割近くとなっています。

なお、「区に愛着をもっている」という人は、ここ数年、高い割合を維持しており、今回の調査では、前回から聴取を始めた「区を良いまちにするための活動をしている人に共感する」という人とともに、それぞれ7割以上に達していることも、注目に値します。

調査の概要

- ◇対象者…… 20歳以上の区民
- ◇対象者の抽出…… 単純無作為抽出法
- ◇対象者数…… 3,000人
- ◇調査方法…… 郵送配布郵送回収法
- ◇回収数(率)…… 1,590人(53.0%)
- ◇調査時期…… 2019(令和元)年8月

- 定住性
- 大震災などの災害への備え
- 洪水対策
- 区の情報発信のあり方
- 健康
- スポーツ
- ビューティフル・ウィンドウズ運動
- 環境・地域活動
- 「孤立ゼロプロジェクト」など
- 協働・協創
- 区の取り組み



2020(令和2)年2月

足立区

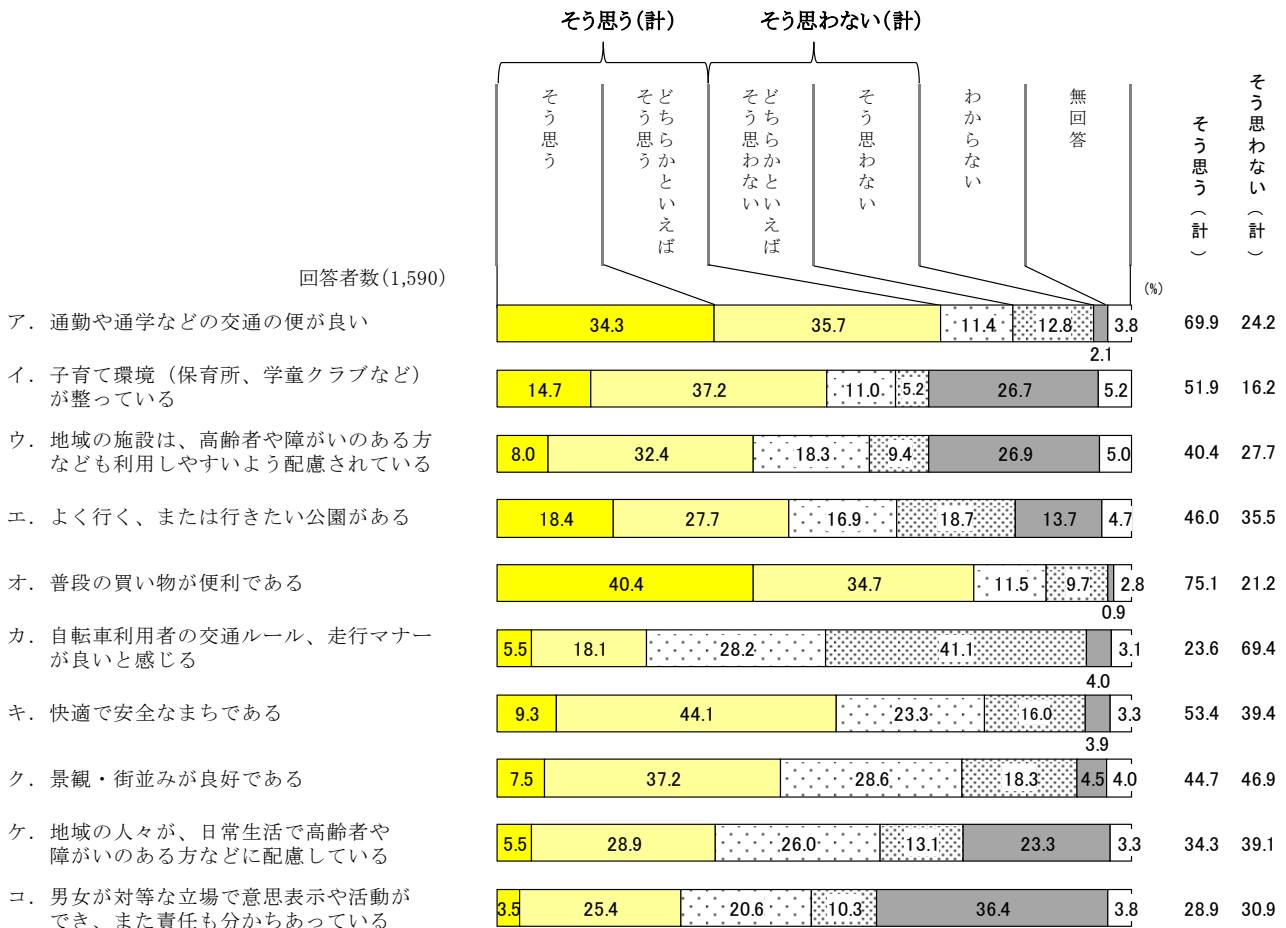
定住性

住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が75.1%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便が良い〉69.9%、〈快適で安全なまちである〉53.4%の順となっています。



住まいの地域についての感じ方

【普段の買い物が便利である】と感じている人は、7割台半ばとなっています。



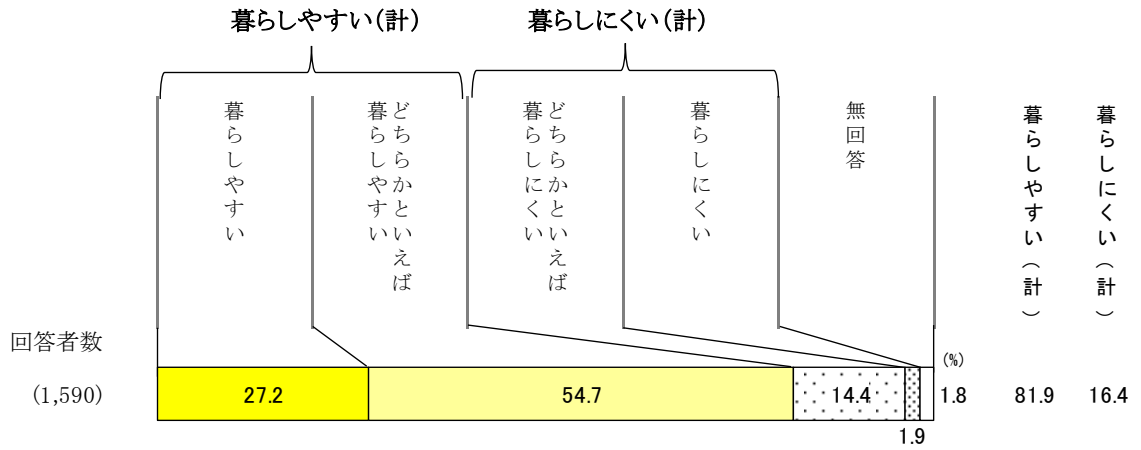
参考1： 百分比(%)と百分比(%)を合わせる場合、本来の実数値を合わせて算出した百分比を記しているのので、その百分比は紙面上の百分比の合計と合わない場合があります。

2： 表題に(複数回答)と表記されている場合は、回答数に制限がないことを意味しています。



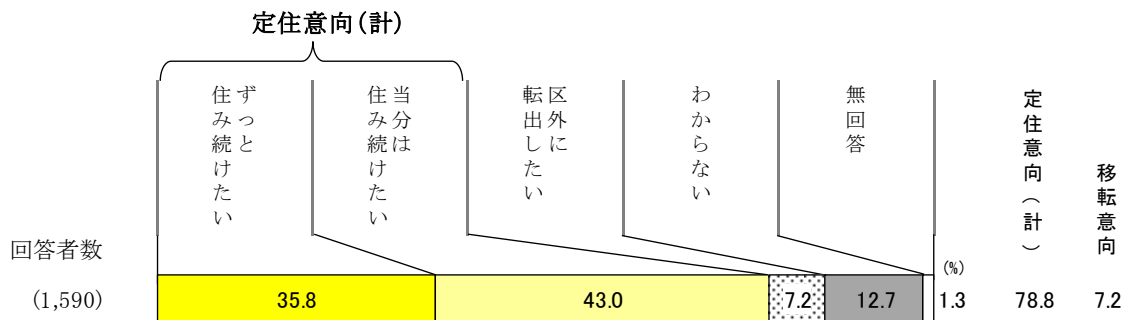
地域の暮らしやすさ

【暮らしやすい】は8割強で、1割台半ばの【暮らしにくい】を大きく上回っています。



定住意向

【定住意向】をもっている人は、8割近くとなっています。



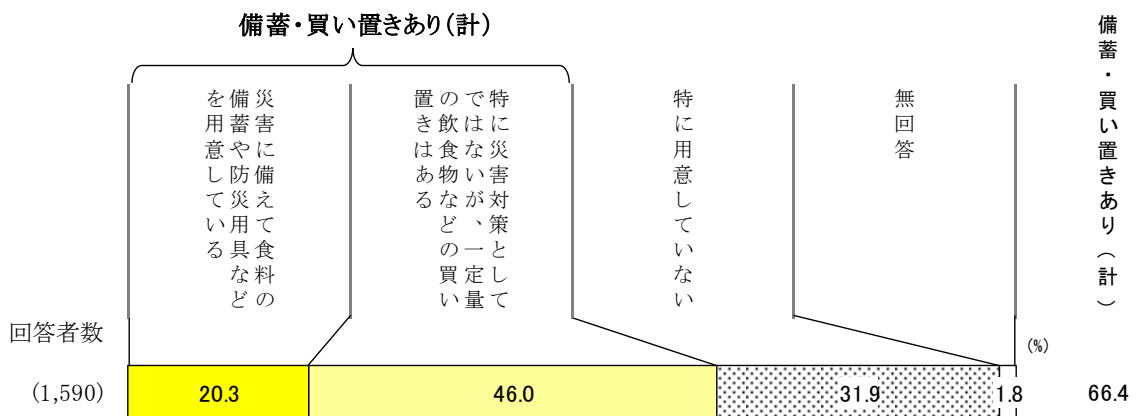
大震災など災害への備え

災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が20.3%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.0%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は66.4%となっています。一方、「特に用意していない」は31.9%となっています。

【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が88.1%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（80.1%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（76.8%）の順となっています。

☀️ 備蓄や防災用具などの用意

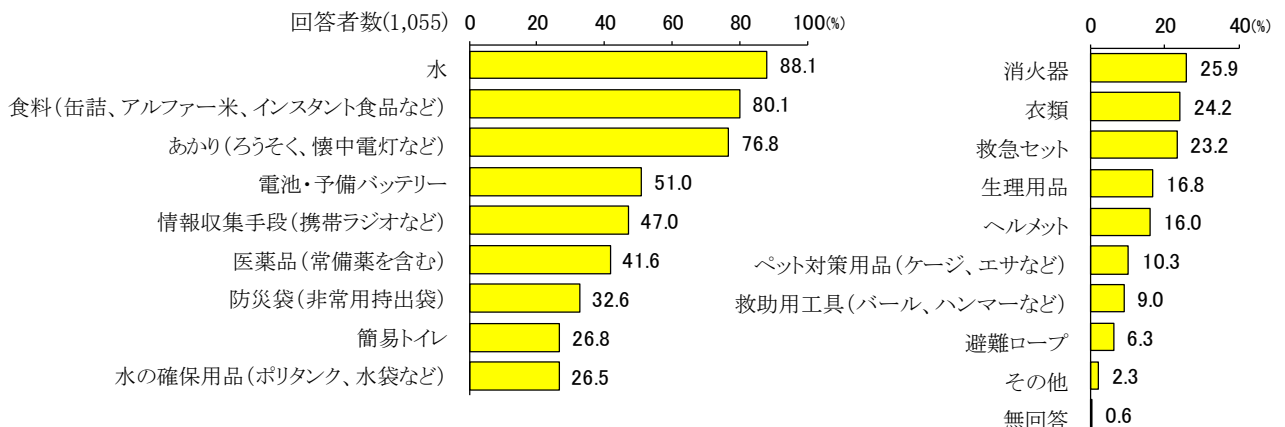
家庭備蓄をしていない人は、3割強となっています。



☀️ 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（複数回答）

※【備蓄・買い置きあり】ベース

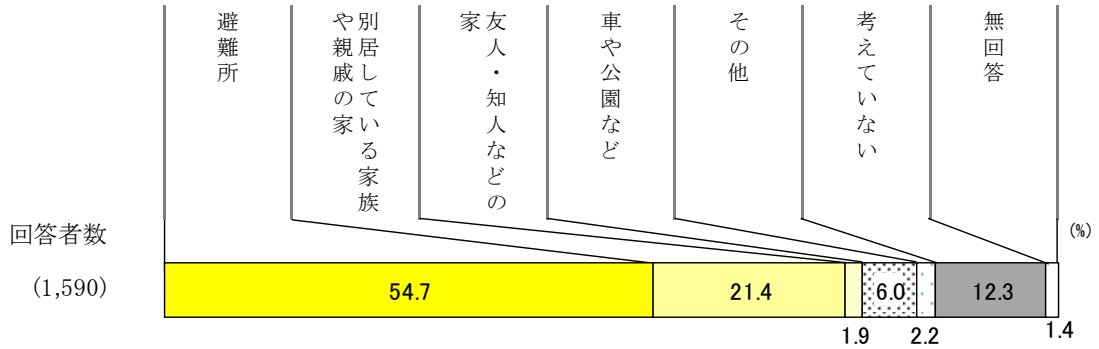
「水」が9割弱、「食料」が8割、「あかり」が8割弱で、上位となっています。





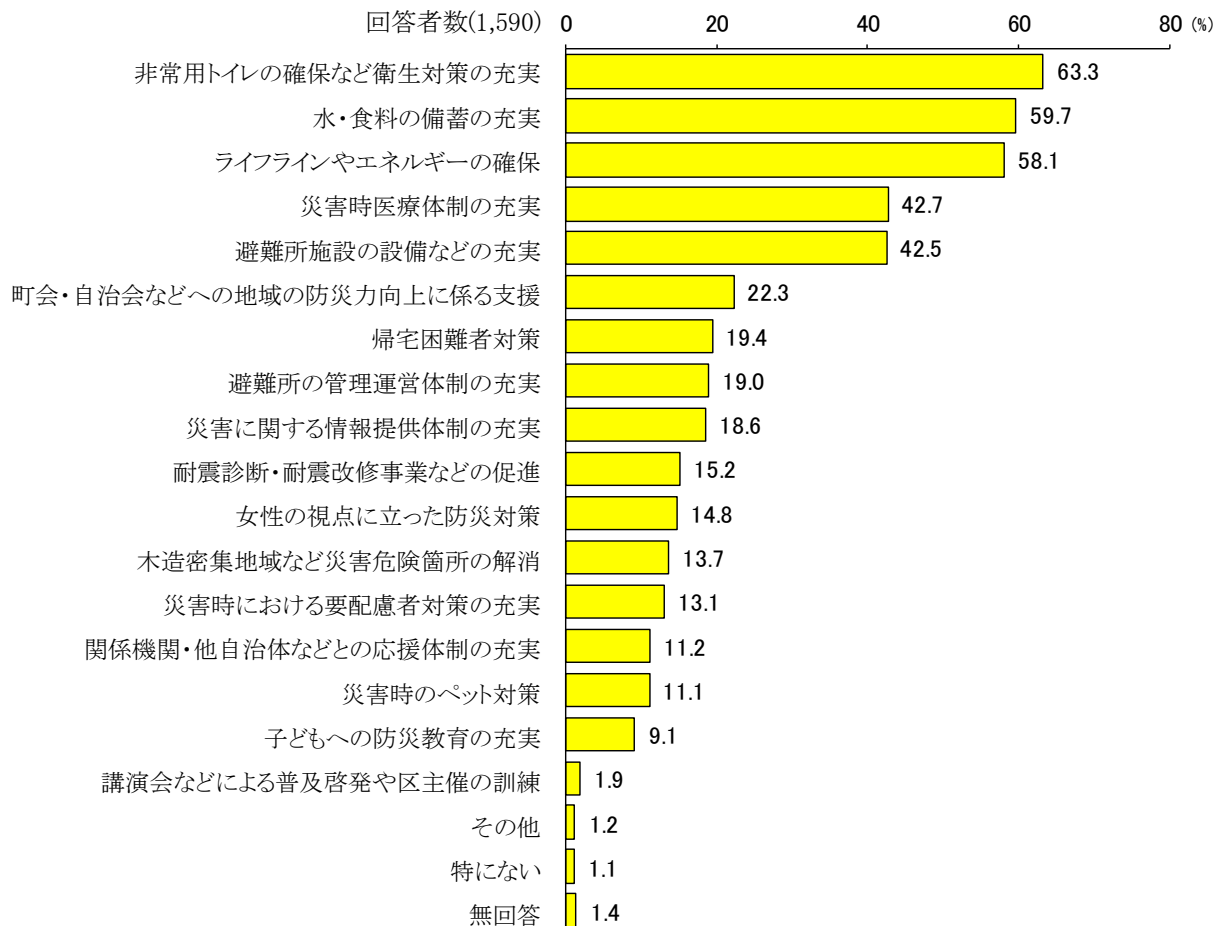
大規模災害時の避難生活場所

「避難所」という人が、5割台半ばを占めて中核となっています。



大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと (〇は5つまで)

“衛生対策の充実” “水・食糧の備蓄の充実” “ライフラインやエネルギーの確保” の3項目が、それぞれ6割前後で上位となっています。



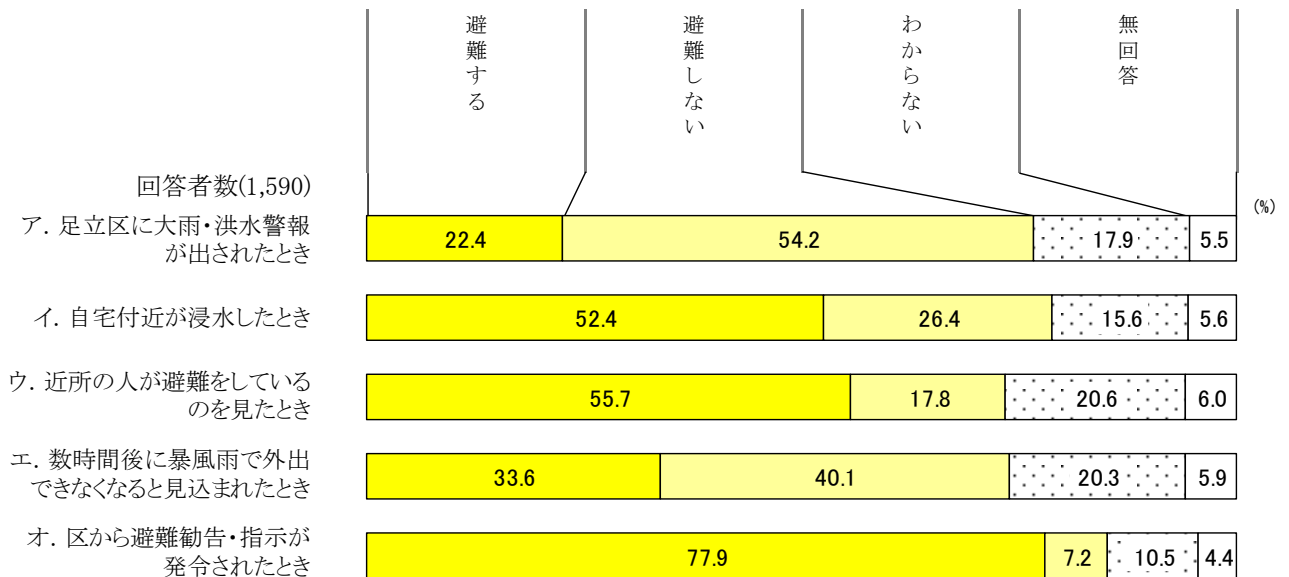
洪水対策

河川はん濫による浸水被害の際の対処として、「避難する」は、“区から避難勧告・指示が発令されたとき”が77.9%で最も高く、以下“近所の人が避難をしているのを見たとき”が55.7%、“自宅付近が浸水したとき”が52.4%となっています。



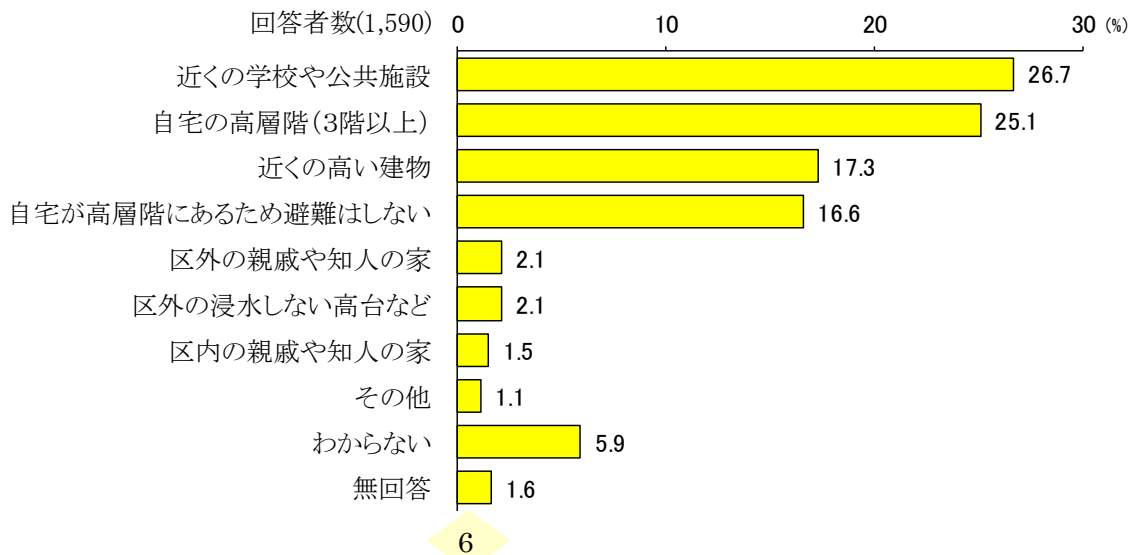
河川はん濫による浸水被害の際の対処

“区から避難勧告・指示が発令されたとき”に避難をする人が、8割弱で最も多くなっています。



荒川がはん濫した際の最初の避難先

「近くの学校や公共施設」と「自宅の高層階（3階以上）」が、それぞれ2割台後半と多くなっています。

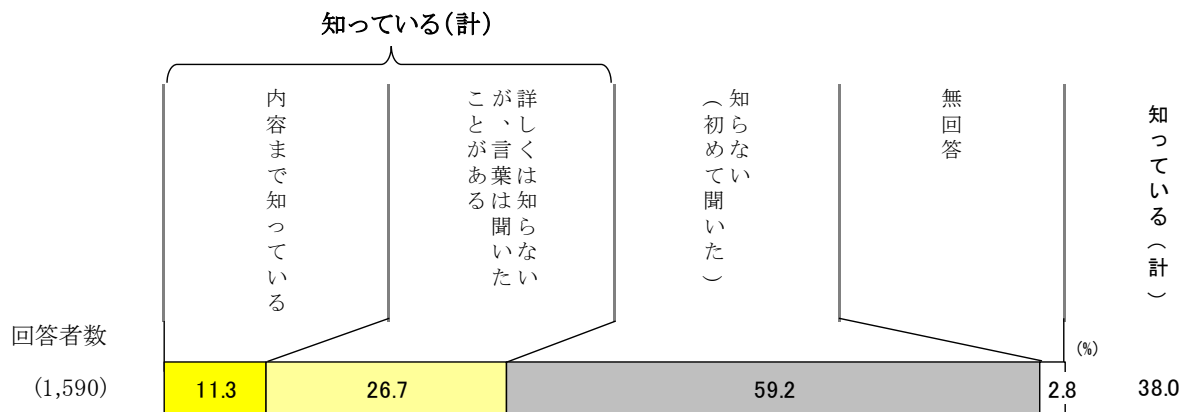


健康

《あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～》という区のキャッチフレーズを「内容まで知っている」は11.3%で、これに「詳しくは知らないが、言葉は聞いたことがある」の26.7%を合わせた【知っている】は38.0%となっています。

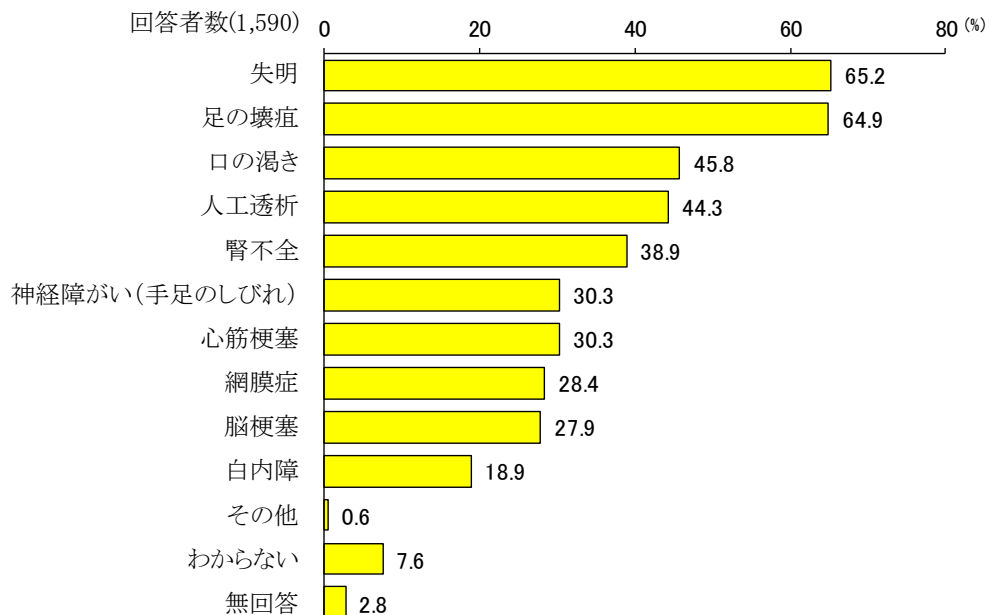
☀ 区のキャッチフレーズの認知状況

認知されている人は、4割弱となっています。



☀ 糖尿病の進行による病気や障がいの認識（複数回答）

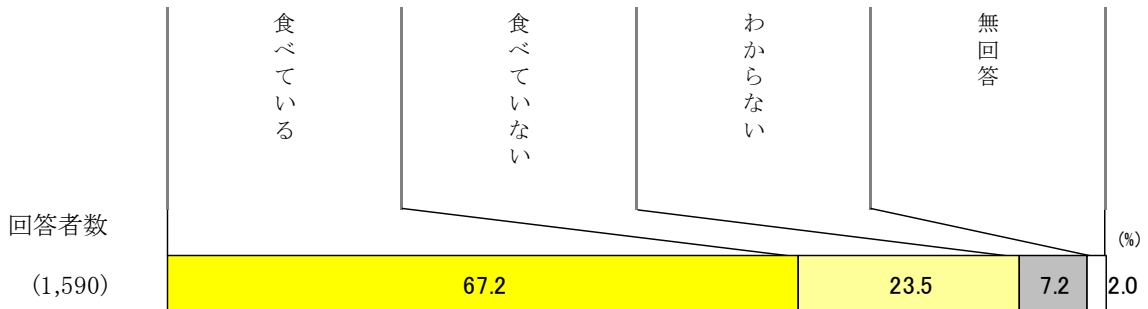
「失明」と「足の壊疽（えそ）」がともに6割台半ばで、上位となっています。





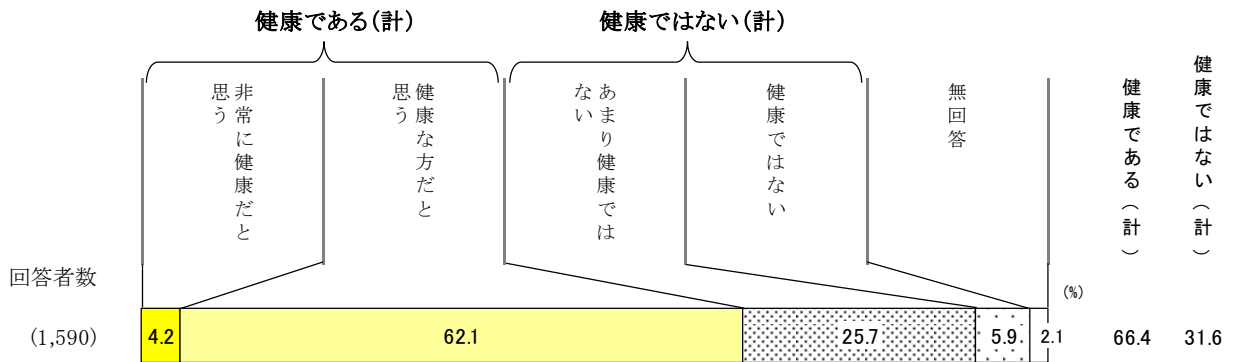
野菜から食べ始めることの実践状況

野菜から「食べている」人は、7割弱となっています。



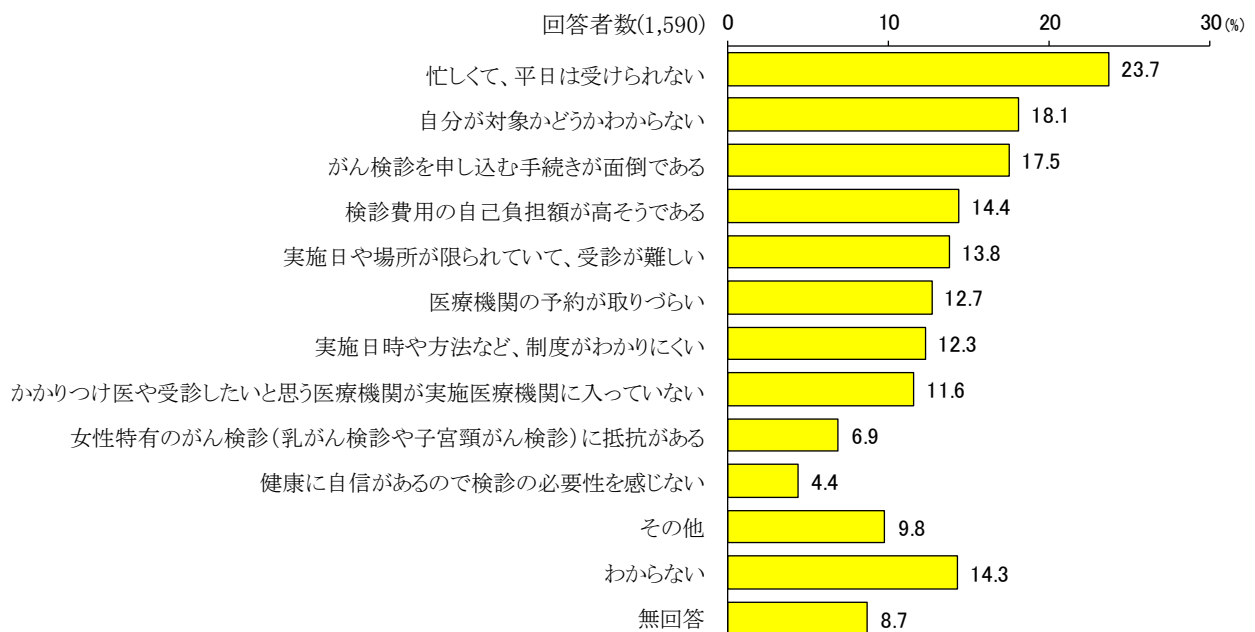
自身の健康状態について

自分は「健康ではない」と思っている人は、3割強となっています。



がん検診制度の感想 (複数回答)

「忙しくて、平日は受けられない」が2割台半ばで最も多いものの、感想は多岐に亘っています。

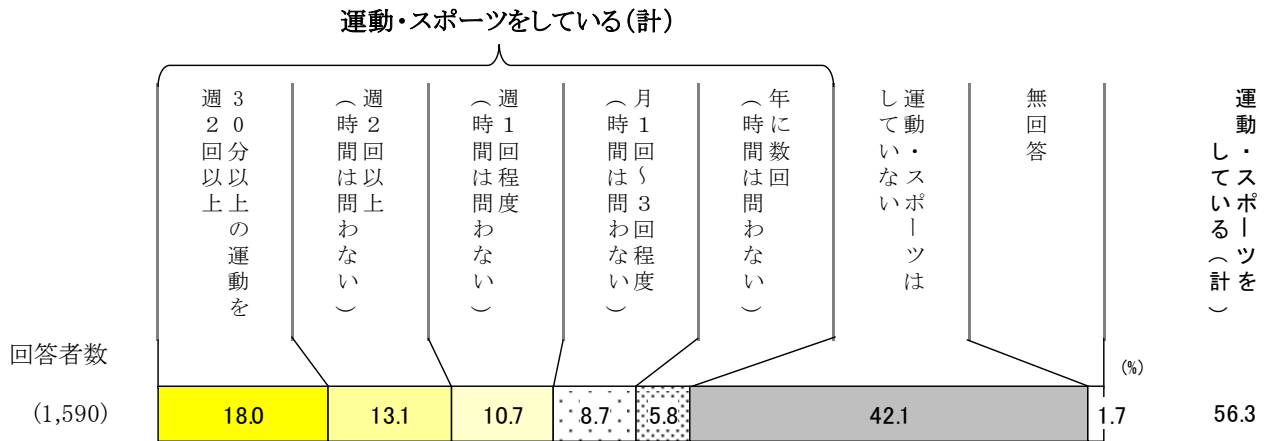


スポーツ

「運動・スポーツはしていない」という人は42.1%となっています。
 行っている運動・スポーツとしては、「ウォーキング」が46.2%で最も高く、以下「健康体操」(21.9%)、「筋力トレーニング」(20.8%)の順で続いています。

☀️ 日常的な運動・スポーツの実施状況

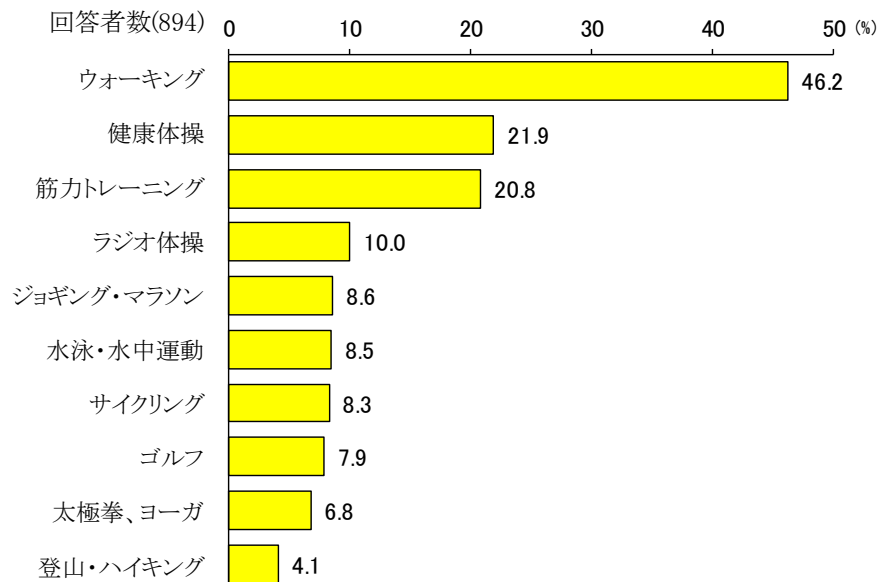
“運動・スポーツはしていない”という人は、4割強となっています。



☀️ 継続的に実施している運動・スポーツ(複数回答/上位10項目)

※【運動・スポーツをしている】ベース

「ウォーキング」が4割台半ばで、突出して高くなっています。

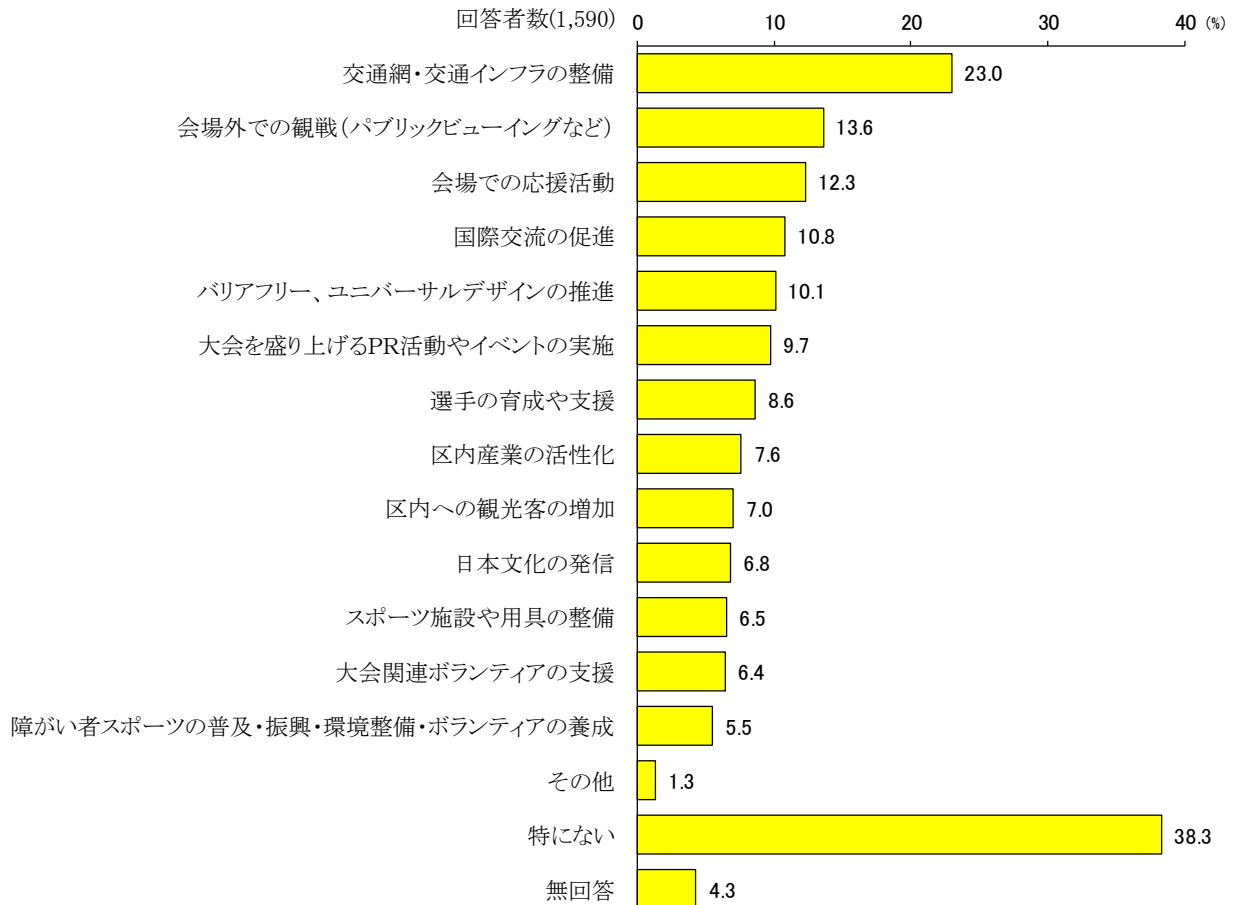




2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた区の実施で関心があること

(〇は3つまで)

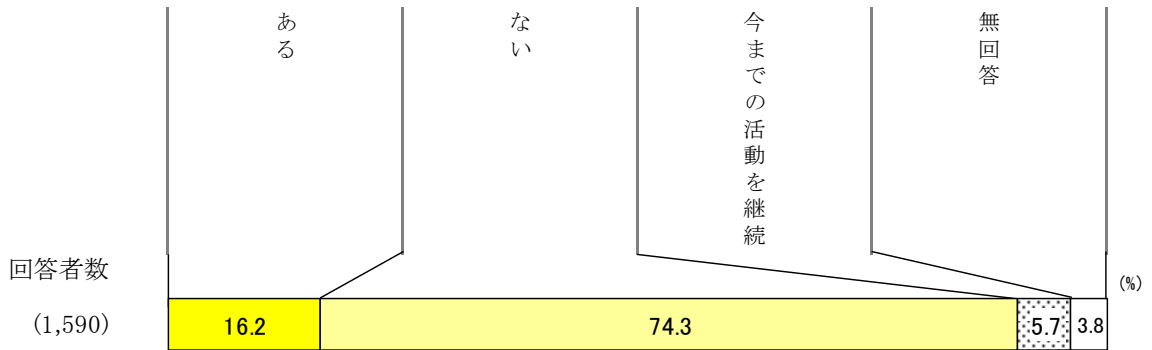
「交通網・交通インフラの整備」が2割強で最も多いものの、「特にない」が4割弱に達しています。





新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動の有無

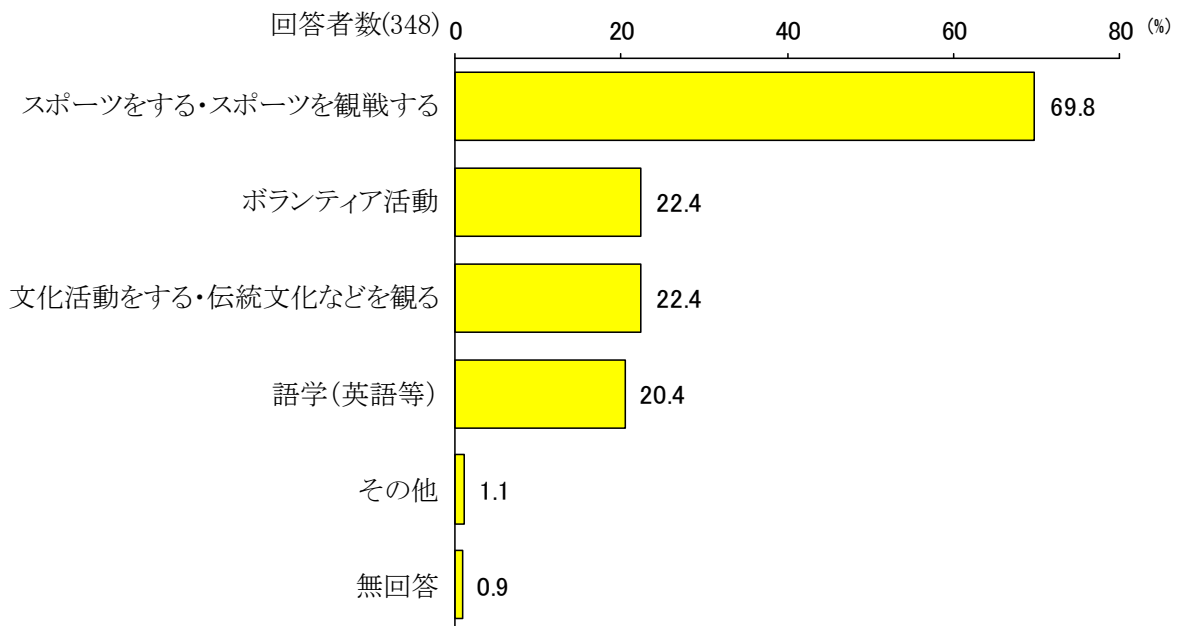
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、新たに始めたい活動が「ある」人は1割台半ばみられるものの、「ない」人が7割台半ばと多数になっています。



新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動（複数回答）

※新たに始めたい活動が「ある」または「今までの活動を継続」ベース

新たに始めたいスポーツ、文化、ボランティア活動が「ある」または「今までの活動を継続」と回答した人に対して、その活動の内容を聞いたところ、“スポーツをする・観戦する”が約7割と なっています。

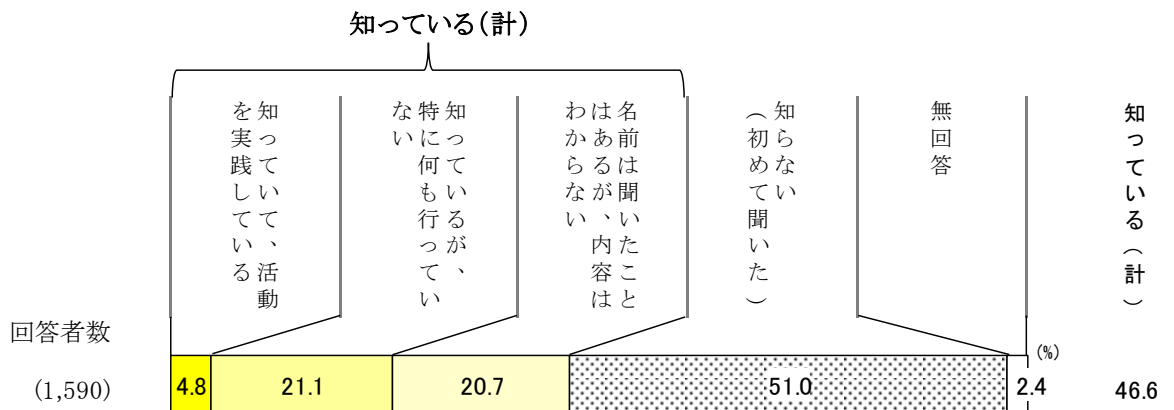


ビューティフル・ウィンドウズ運動

《ビューティフル・ウィンドウズ運動》について、「知っていて、活動を実践している」は4.8%で、これに「知っているが、特に何も行ってない」(21.1%)、「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(20.7%)を合わせた【知っている】は46.6%となっています。

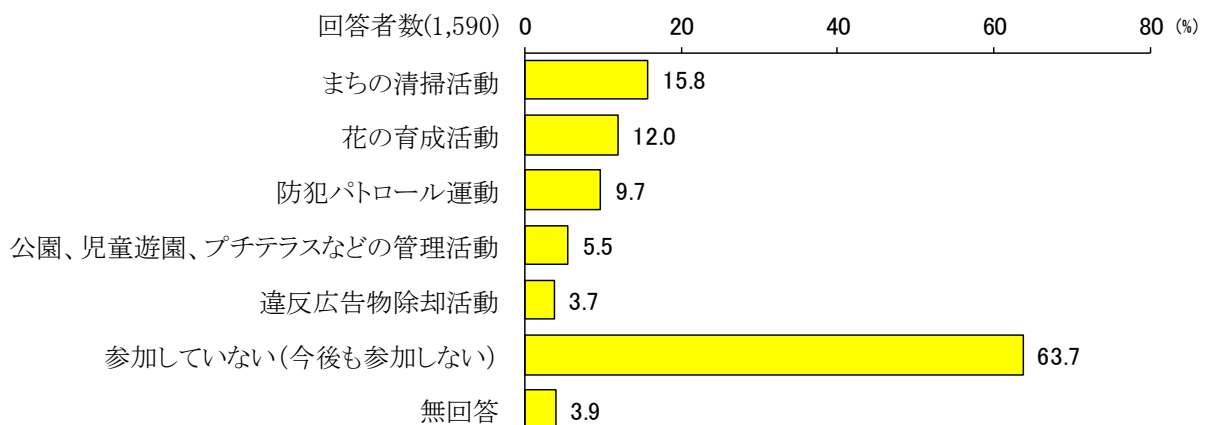
☀️「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況

【知っている】は半数近くとなっています。



☀️参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み (複数回答)

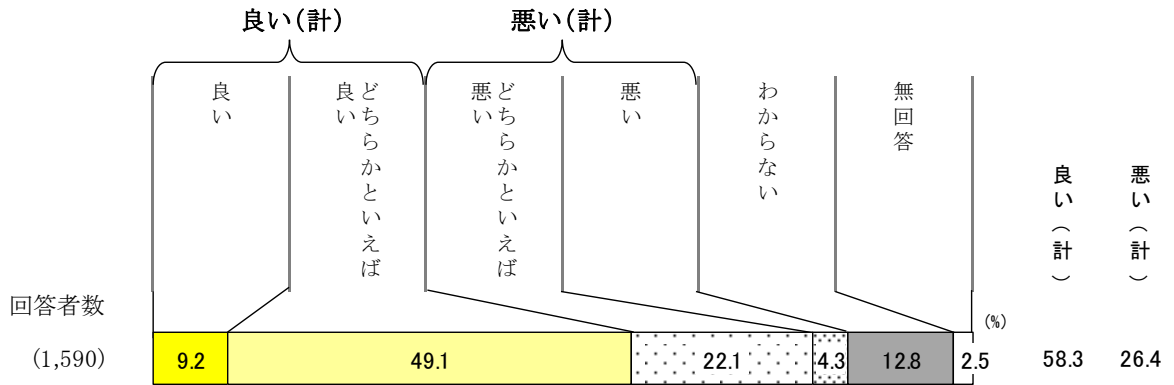
「まちの清掃活動」が1割台半ばで最も多いものの、「参加していない(今後も参加しない)」が6割台半ばとなっています。





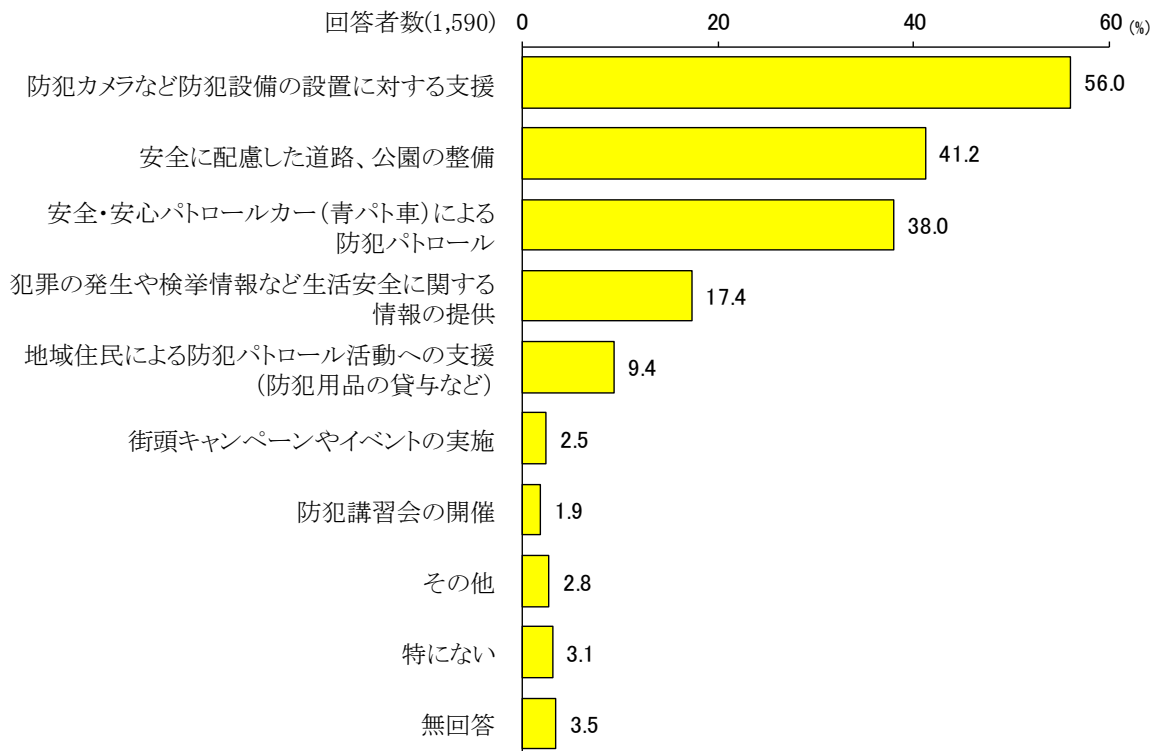
居住地域の治安状況

【良い】と感じている人が6割弱で、【悪い】と感じている人が2割台半ばとなっています。



治安対策として区に力を入れてほしいこと (〇は2つまで)

“防犯設備の設置に対する支援”が5割台半ば、“安全に配慮した道路、公園の整備”と“安全・安心パトロールカーによる防犯パトロール”が4割前後で続き、上位となっています。

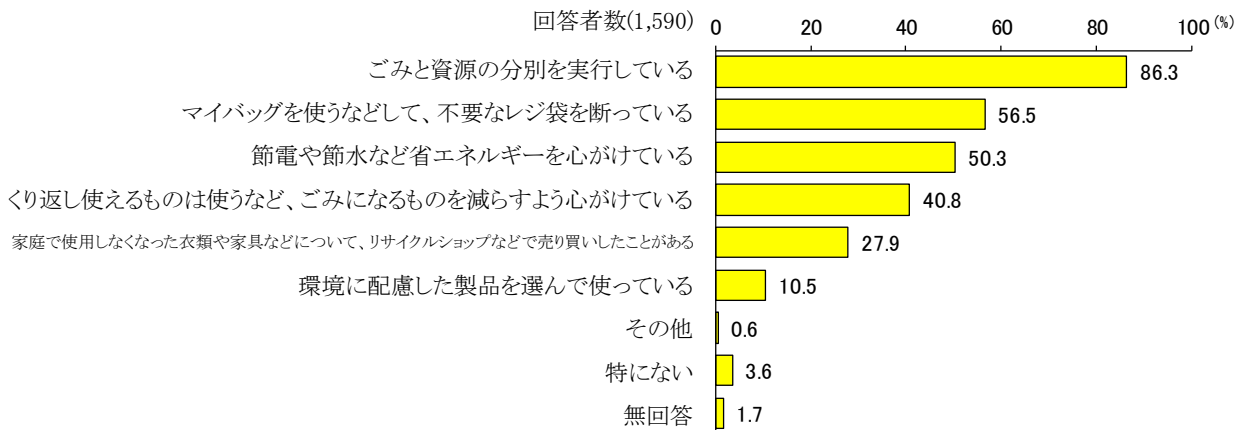


環境・地域活動

環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が86.3%で最も高く、以下「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(56.5%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(50.3%)の順となっています。

☀️ 環境のために心がけていること（複数回答）

“ごみと資源の分別”が8割台半ば、“レジ袋を断る”が5割台半ばと、例年同様の水準を維持しており、年々減少傾向のみられた“節電や節水など省エネの心がけ”も今回は5割台まで伸びています。



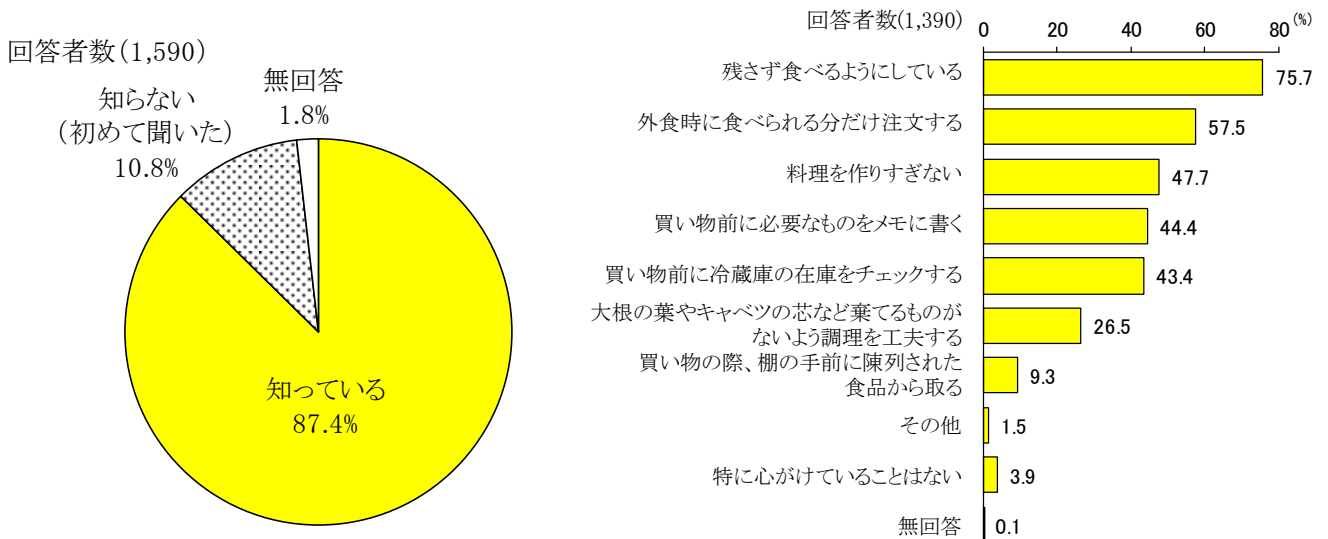
☀️ 「食品ロス」という言葉の認知

☀️ 食品ロス削減のために心がけていること（複数回答）

※食品ロスを知っている方の回答

言葉の認知率は、9割弱まで伸びています。

“残さず食べる”が7割台半ばとなっています。



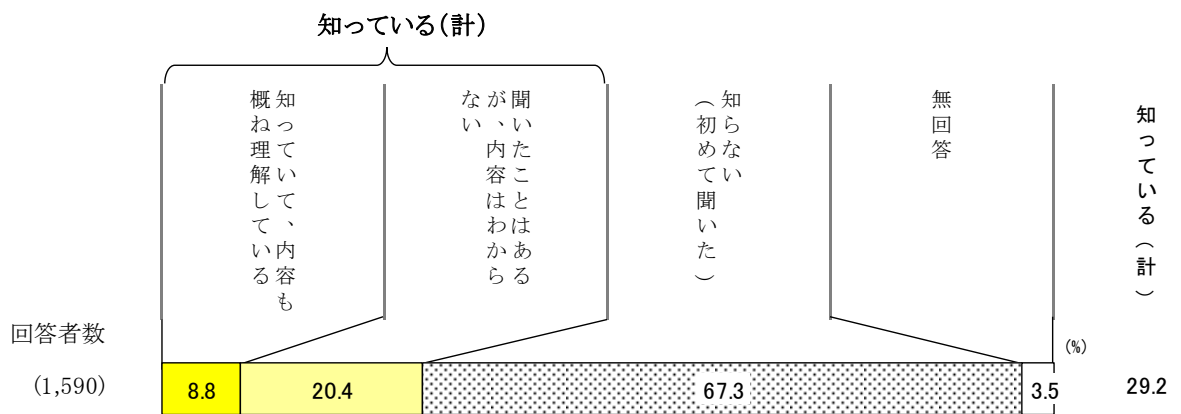
「孤立ゼロプロジェクト」など

《孤立ゼロプロジェクト》について、「知っている、内容も概ね理解している」は8.8%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の20.4%を合わせた【知っている】は29.2%となっています。一方、「知らない（初めて聞いた）」は67.3%を占めています。



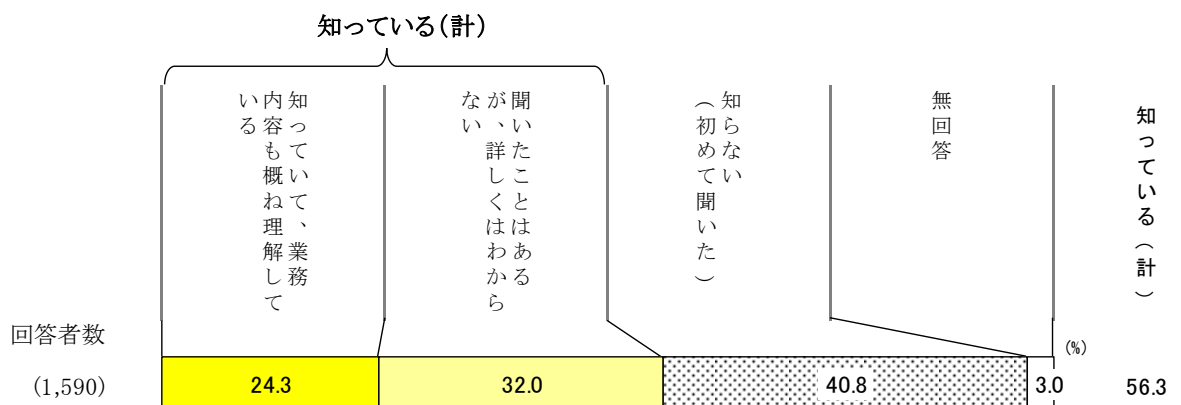
「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

【知っている】が3割弱、「知らない（初めて聞いた）」が7割弱となっています。



「地域包括支援センター」の認知状況

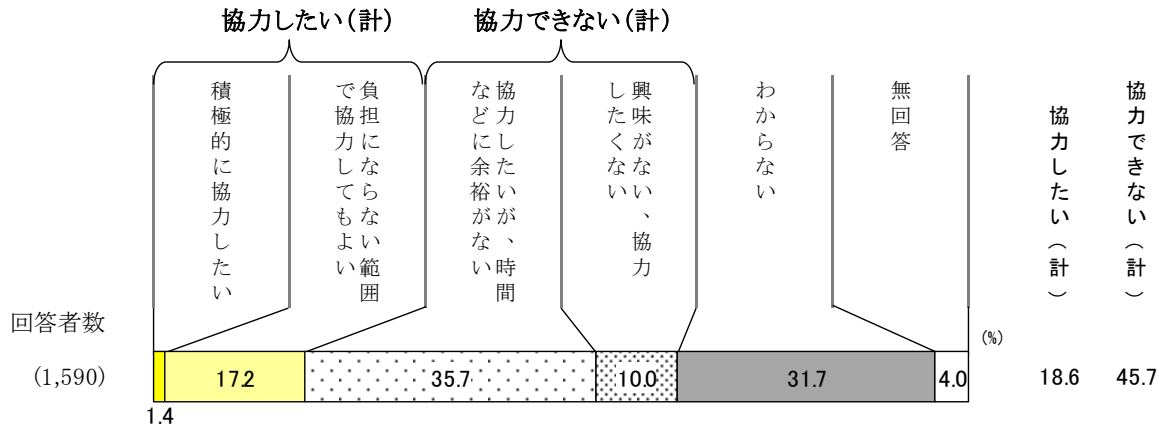
【知っている】が5割台半ばとなっています。





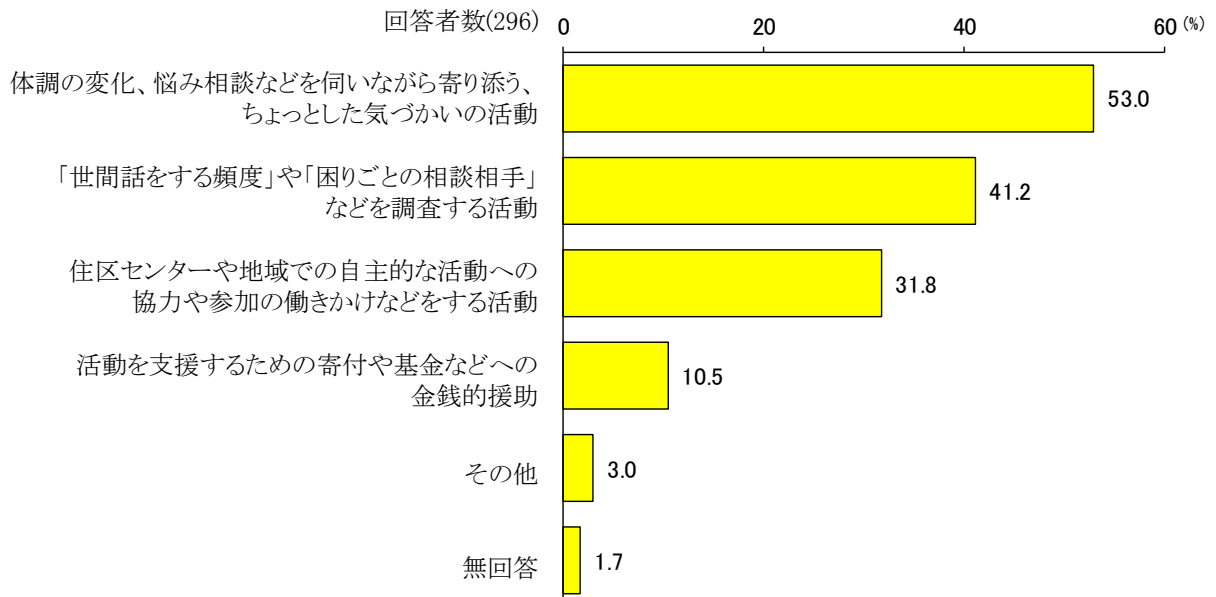
高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

【協力したい】の2割弱に対して、【協力できない】は4割台半ばとなっています。



協力意向がある活動内容（複数回答）※協力したいという方の回答

“ちょっとした気づかいの活動”が5割強、“調査する活動”が4割強となっています。



協働・協創

《協創》について、「知っている」は3.7%で、これに「聞いたことはある」(11.4%)を合わせた【知っている】は15.2%となっています。一方、「知らない」は81.7%を占めています。



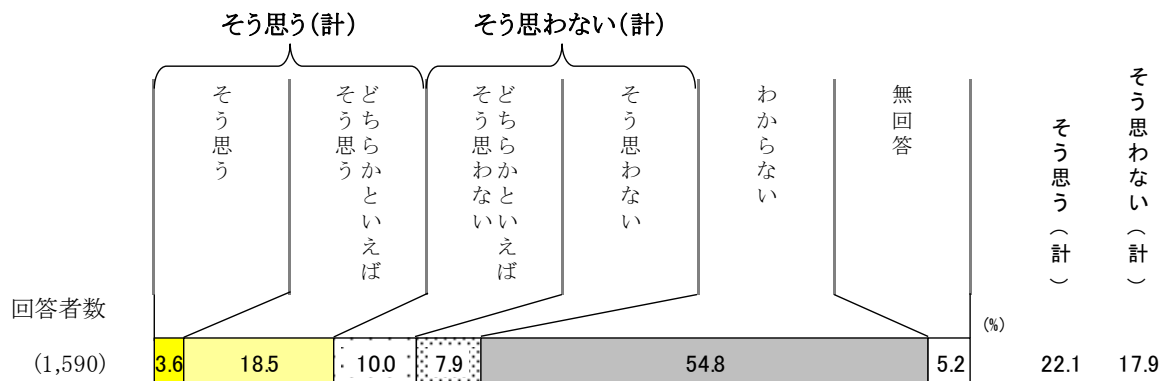
「協創」の認知

【知っている】は、1割台半ばで、「知らない(初めて聞いた)」が8割強を占めています。



区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価

【そう思う】が【そう思わない】をやや上回って多くなっていますが、「わからない」が半数以上を占めています。



区 の 取 り 組 み

A：現状評価（満足度）が低く、重要度が高い項目

「交通対策」「防災対策」「治安対策」などは、現状評価（満足度）が低く、重要度が高くなっています。

B：現状評価（満足度）が高く、重要度も高い項目

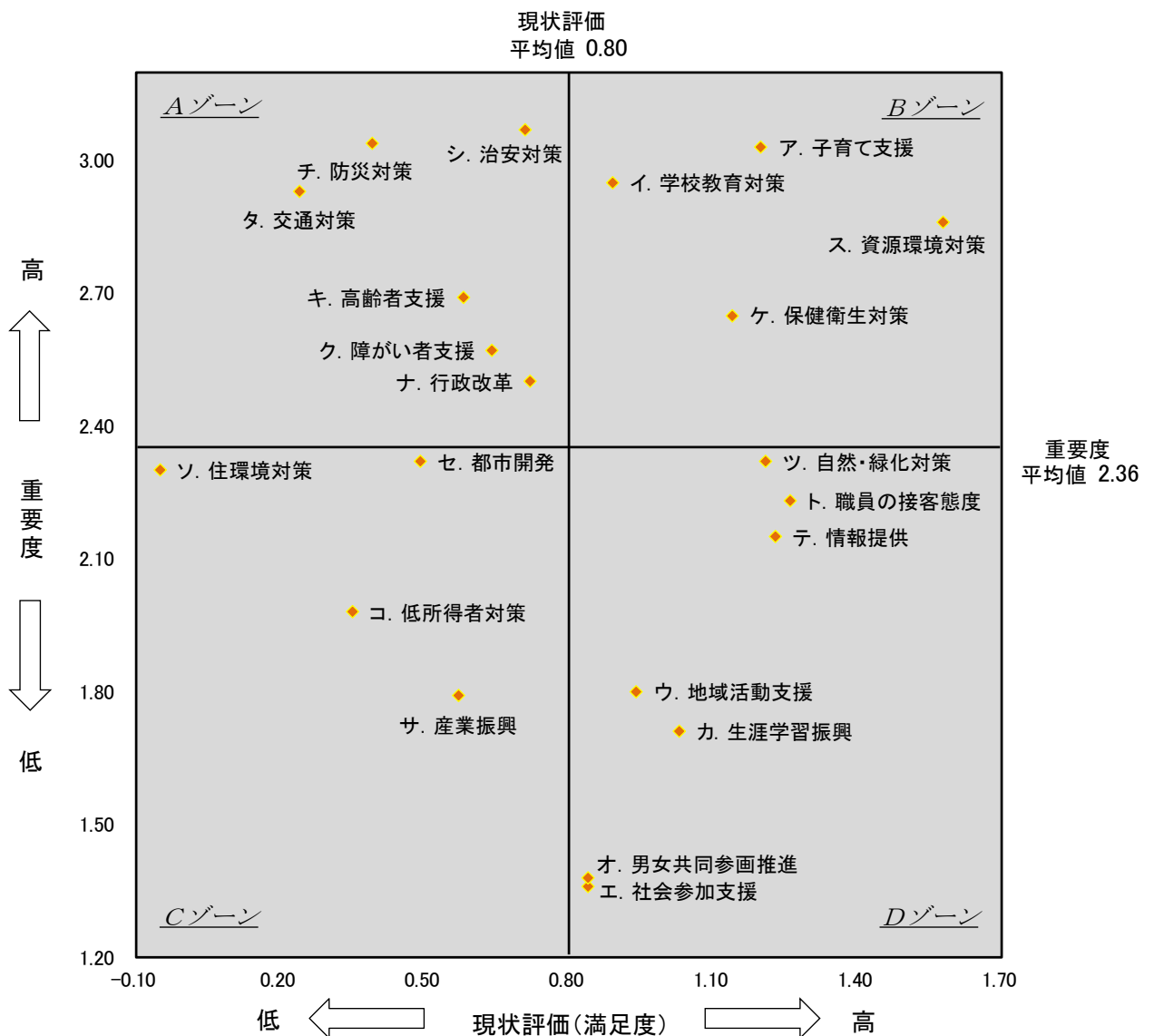
「資源環境対策」「子育て支援」「保健衛生対策」などは、現状評価（満足度）と重要度の両面で高くなっています。

C：現状評価（満足度）も重要度も低い項目

「低所得者対策」と「産業振興」は、現状評価（満足度）と重要度の両面で低くなっており、「住環境対策」は現状評価（満足度）がとくに低くなっています。

D：現状評価（満足度）が高く、重要度が低い項目

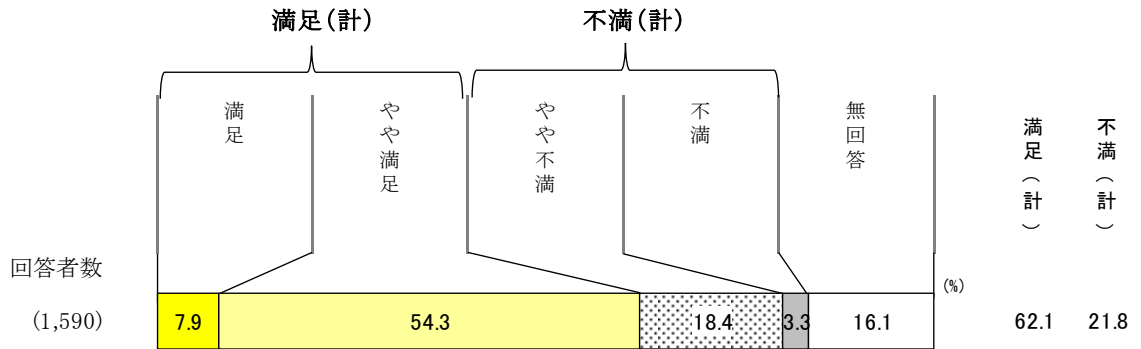
「職員の接客態度」「情報提供」「自然・緑化対策」などがあげられています。





区政に対する満足度

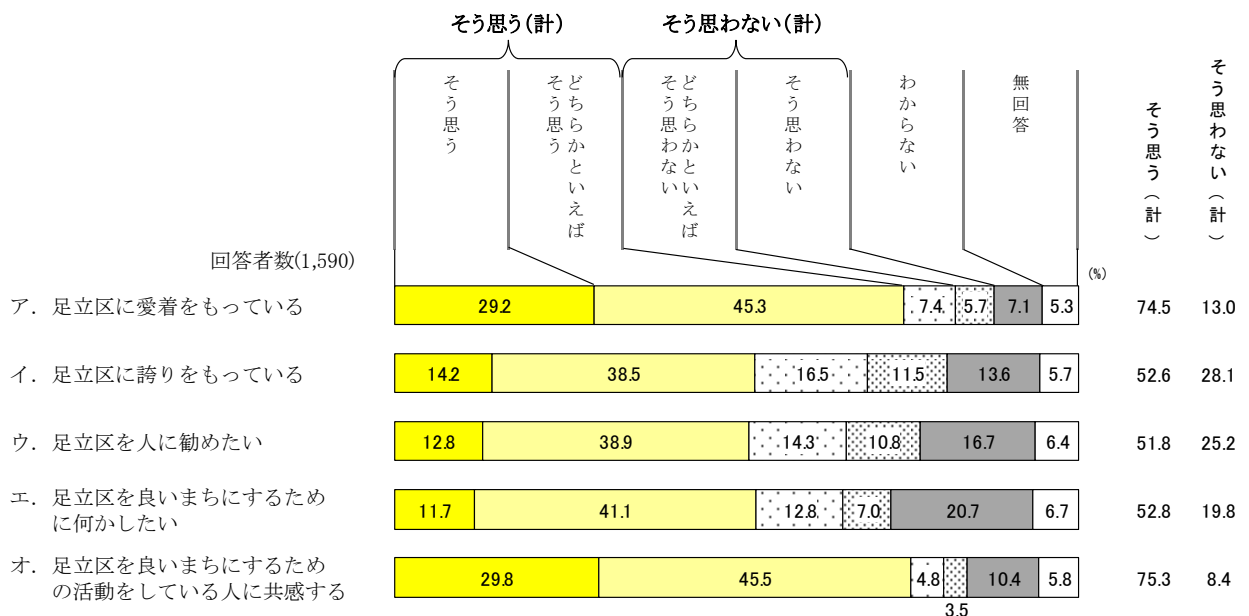
【満足】は6割強を占め、2割強の【不満】を大きく上回っています。



区に対する気持ち

平成21年より聴取している“愛着を持っている”“誇りを持っている”“人に勧めたい”の3項目について、【そう思う】は3項目ともに5割を超えて、安定して高い割合を示しています。

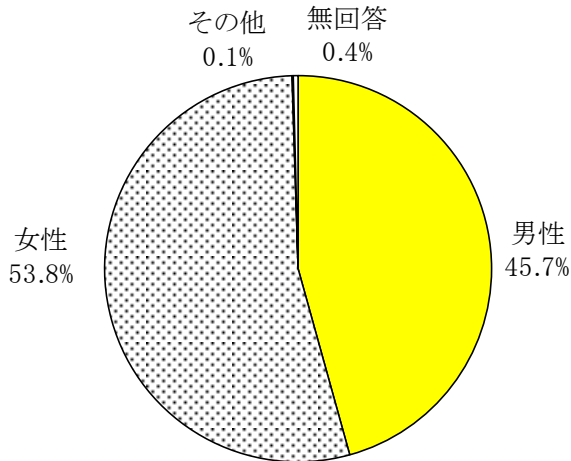
前回の平成30年より新たに追加された、“良いまちにするために何かしたい”では、【そう思う】と回答した人が半数を超えており、“良いまちにするための活動をしている人に共感する”でも、【そう思う】と回答した人が7割台半ばに達しています。



標本構成

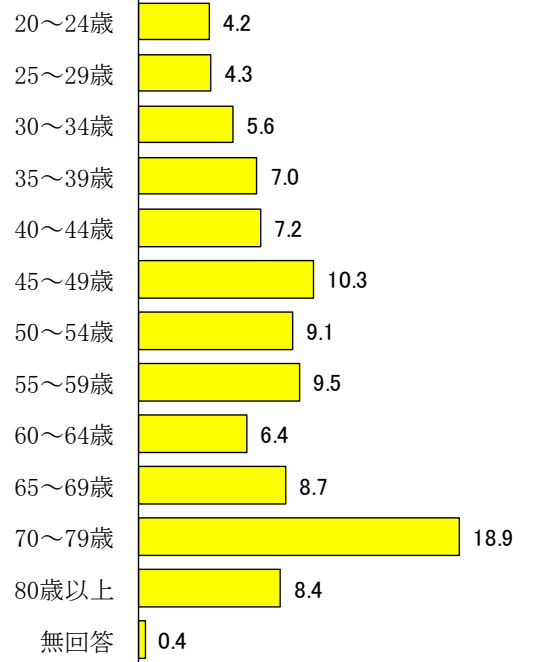
性別

回答者数(1,590)



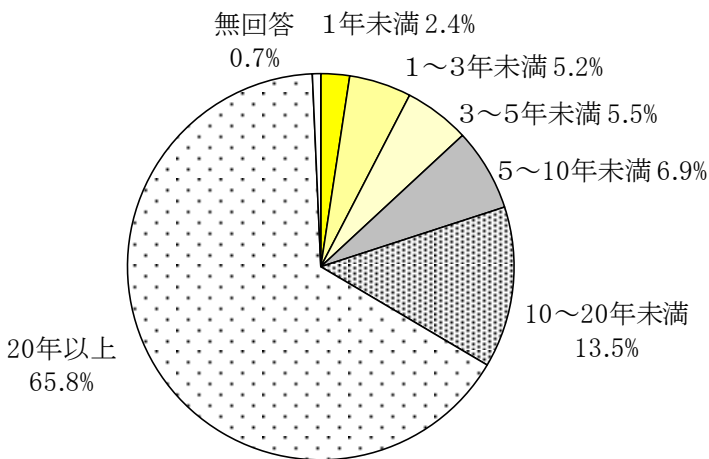
年齢

回答者数(1,590) 0 10 20(%)



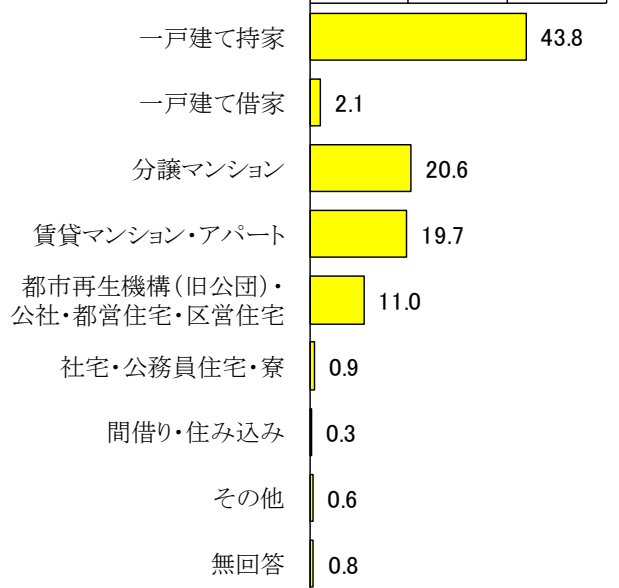
居住年数

回答者数(1,590)



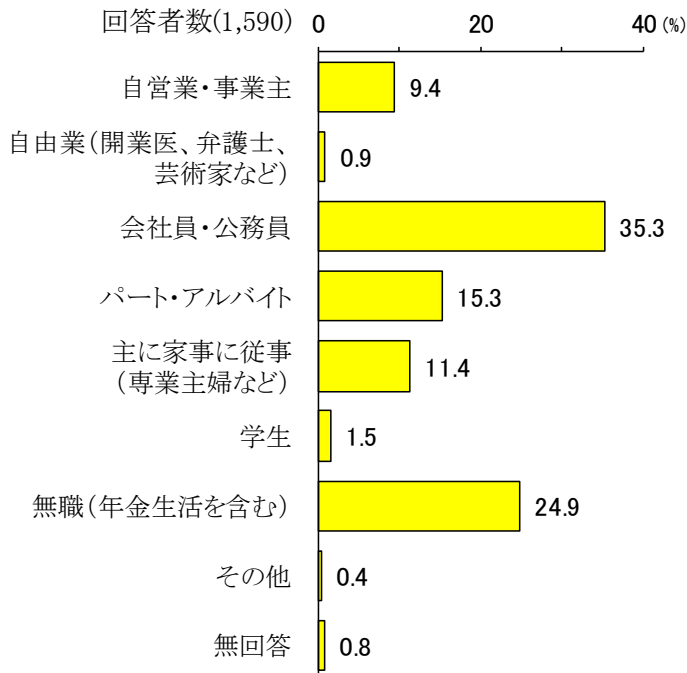
住居形態

回答者数(1,590) 0 20 40 60(%)



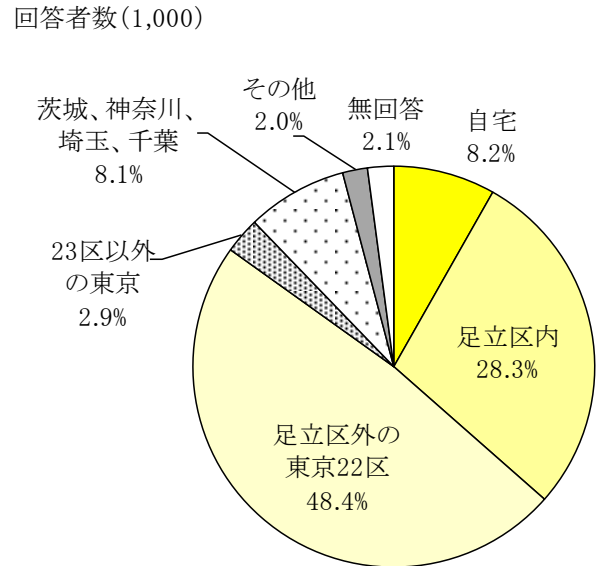


職業

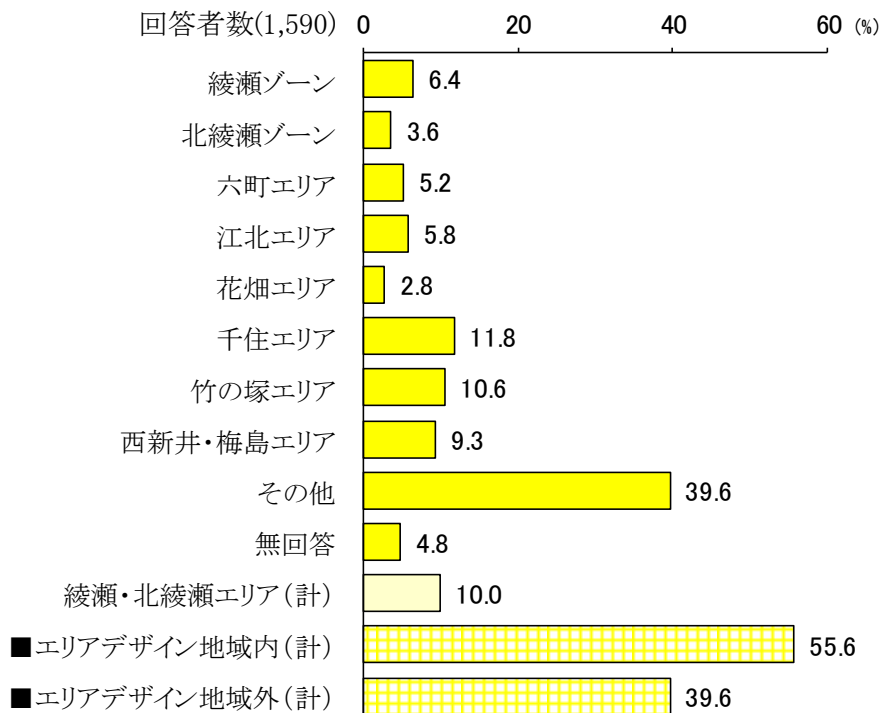


就労(就学)場所

※就労者、就学者ベース

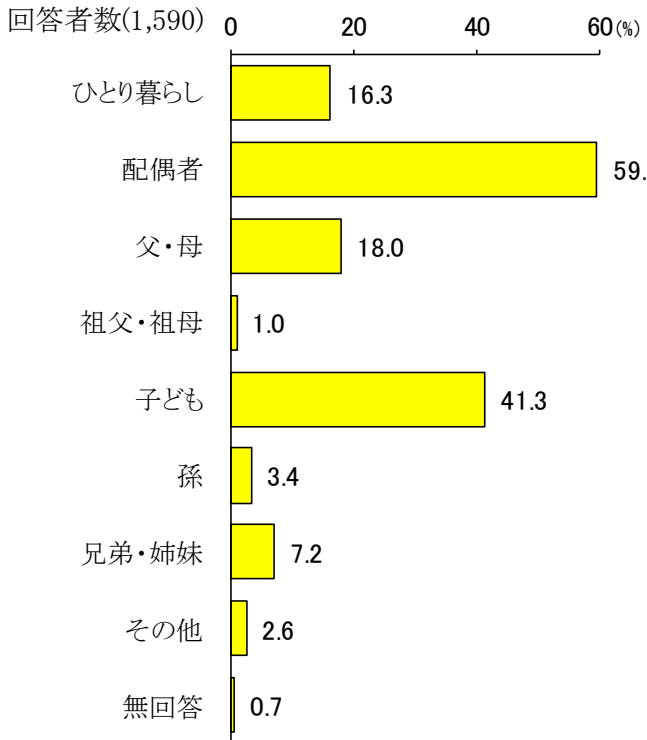


エリアデザイン

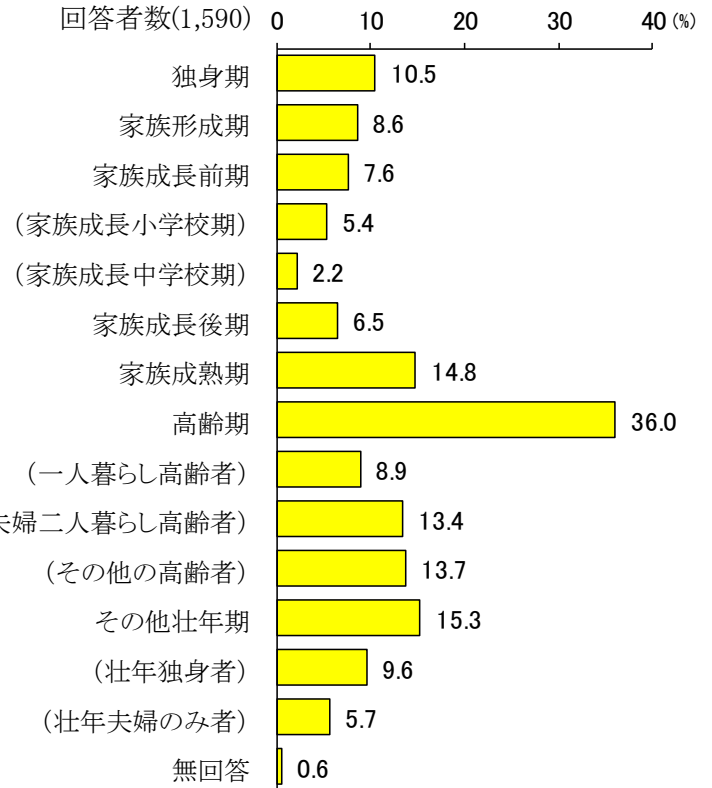




同居家族（複数回答）



ライフステージ



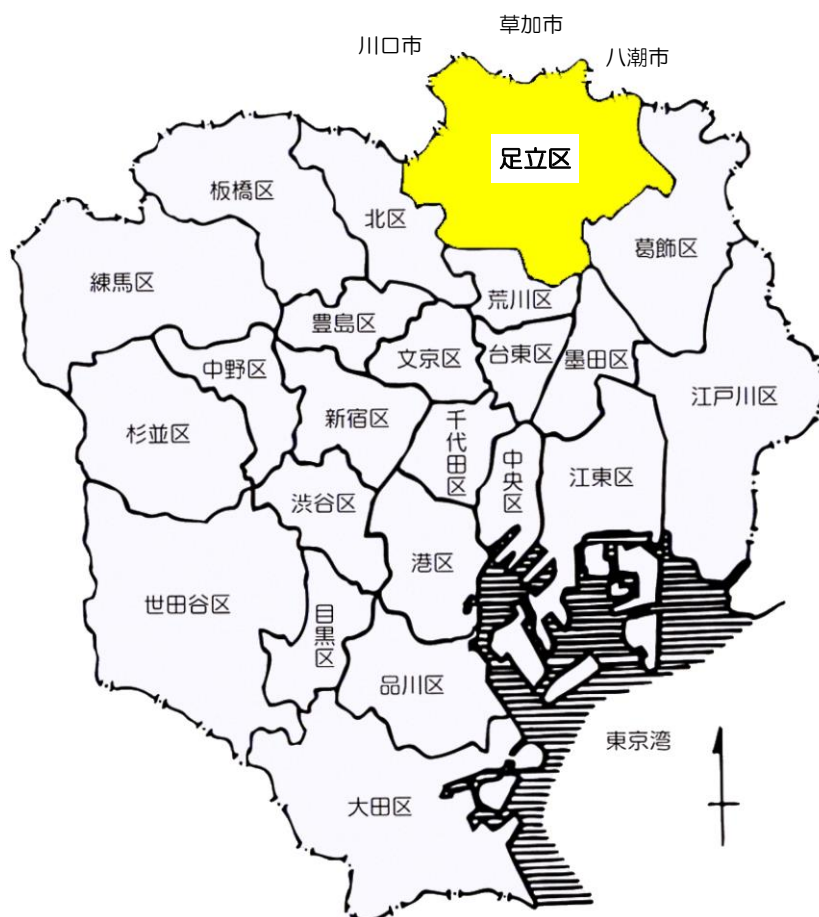
《 ライフステージの定義 》

ライフステージ別（7カテゴリー）

- ・ 独身期 40歳未満の独身者
- ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
- ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
- ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
- ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
- ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、
 夫婦二人暮らし以外の人
- ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦

足立区の面積 53.25km²
人口 691,298人
世帯 352,835世帯

*令和2年1月1日現在



足立区 政策経営部 広報室 区政情報課

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1

TEL 03(3880)5111(代)

世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。
ホームページアドレス<http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区 政策経営部 広報室 区政情報課